

機器を据付ける前に必ずこの工事説明書をよく読みの上、正しく据付けてください。
なお、この工事説明書は工事終了後、取扱説明書と共に必ずお客様にお渡しください。

特に注意していただきたいこと

●ここに示した事項は、危害・損害の程度によって次のように分類されます。
いずれも安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。

警告

この表示を無視して作業を誤った場合に、作業員またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して作業を誤った場合に、作業員またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性、または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●絵表示には次のような意味があります。

	一般的な禁止		アースを接続すること
	必ず行うこと		電源プラグを抜くこと

警告

火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事や水道工事はそれぞれ指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守ってください

据付けや移動は、販売店または据付業者が行ってください

●お客様ご自身で据付けをされ、不備があると火災や感電の原因になります。

屋内設置禁止 (拡散排気筒使用時)

●拡散排気筒を取付けるときは必ず屋外に設置してください。
また、屋外でも通気の悪い場所には設置しないでください。火災や予想しない事故の原因になります。

屋内排気禁止

●屋内に排気すると排ガスが室内に充満して危険です。必ず屋外に排気してください。

排気筒は確実に接続

●排気筒は確実に接続し、しっかりと固定してください。風・振動・衝撃などではずれたりすると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

注意

次の場所には据付けない

●火災や予想しない事故の原因になります。

- 水平でない場所、不安定な場所
- 不安定な物を載せた棚などの下
- 可燃性ガスや腐食性ガスの発生する場所または、たまる場所 (マンホールや排水口などに近い場所)
- 燃焼に必要な空気を取り入れる空気取入口のない場所 または、換気が行えない場所 (屋内設置の場合)
- 付近に燃えやすいものがある場所
- 階段・避難口などの付近で避難の支障となる場所
- 排水のしにくい場所 ●浴室 ●湿気の多い場所
- 大量の雨水がまとまってかかる場所 (雨樋のないひさしや窓用目隠しルーバーなどの下になる場所)

作業時は保護具を着用する

●作業時は手袋などの保護具を着用してください。

換気扇や換気システムの吸込口付近には、排気筒の排気部を設置しない

●排ガスを室内に吸い込み、健康を害するおそれがあります。

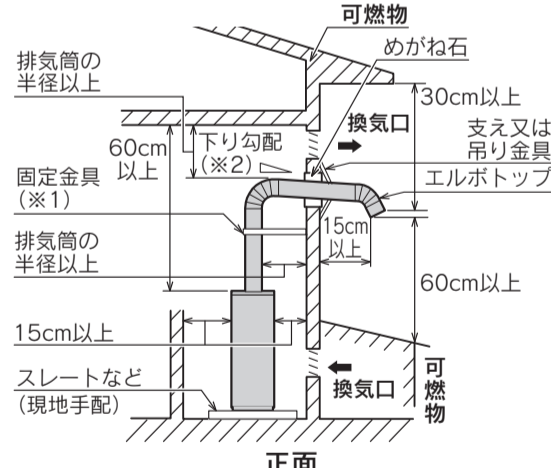
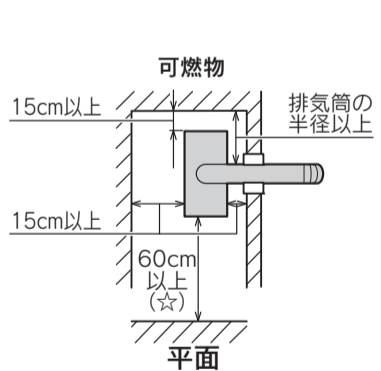
可燃物との距離を離す

- 機器から周囲の可燃物までの離隔距離は図のすべての寸法を守ってください。周囲を防熱板や不燃材構造としたときは緩和されますので、各地域の火災予防条例を参照してください。
- 据付けの際には配管のためのスペースを考慮に入れてください。
- 屋内設置では、金属製以外の不燃材(スレートなど)の床に据付けるか、または防火上有効な措置を講じた金属製の台上に据付けてください。

標準据付例

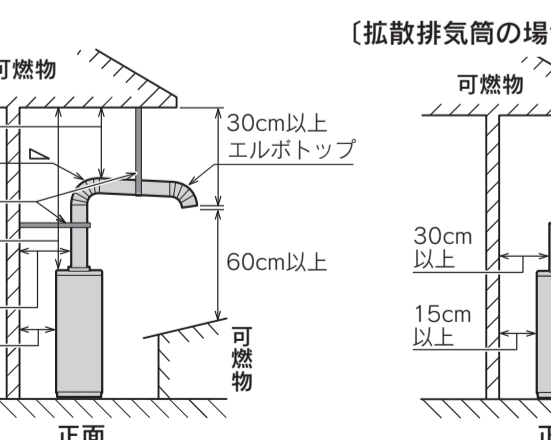
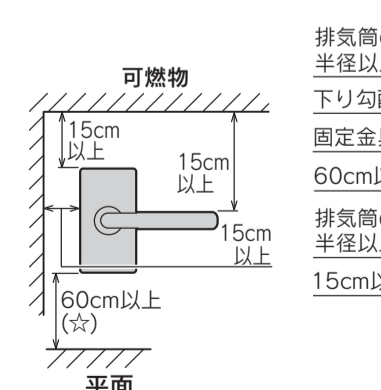
屋内設置の場合

(排気筒(エルボトップ)の場合)



屋外設置の場合

(排気筒(エルボトップ)の場合)



(※1) 排気筒は固定金具で1.5~2m間隔で固定し、自重を支える部分は支えまたは吊り金具で堅固に支持すること。固定金具を2本以上使って、排気筒が抜けたり、倒れることのないように固定すること。
(※2) 屋外に向かって必ず2~3'の下り勾配になるように設置すること。(極端な下り勾配にはしないこと。)
(☆)印の寸法はサービススペースとして必要な寸法です。

家庭用以外の使用禁止

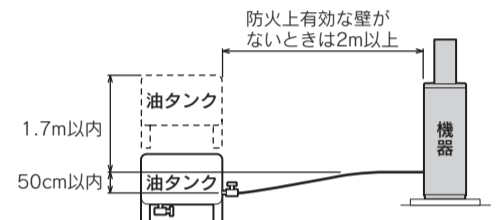
●この機器は家庭用です。家庭用以外に使用すると保証の対象外になります。

囲い禁止(屋外設置の場合)

●機器や排気部を波板などで囲わないでください。不完全燃焼や火災の原因になります。

油タンクとの距離を離す

- 油タンクは機器より2m以上離して設置するか、防火上有効な遮へいを設けてください。
- 油タンクは不燃材でできた水平な基礎の上に設置してください。



アース工事をする

●アース工事を確実に行ってください。故障や漏電のときに感電するおそれがあります。

ゴム製送油管の屋外使用禁止

●屋外では必ず金属管(銅管など)を使用し、ゴム製送油管は絶対に使用しないでください。ひび割れを生じて油漏れの原因になります。

送油管取付け時の確認

●既設の油タンクを使用する場合は、送油管を機器に取付ける前に油タンクからの灯油をバケツなどの容器で受け、油タンク内に水・ゴミ・錆がないことを確認してから取付けてください。油タンク内に水・ゴミ・錆などがたまっていると機器が故障する原因になります。

換気口を設置する(屋内設置の場合のみ)

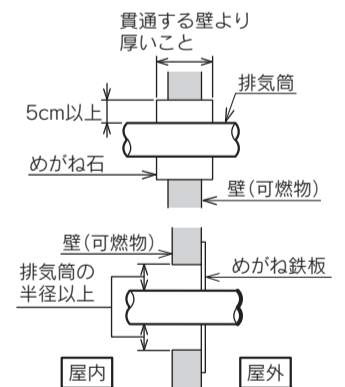
- 屋内やボイラ室に設置するときは燃焼に必要な空気を充分確保するため、上下2箇所に換気口をつけてください。換気口の有効開口面積は490cm²以上です。ガラリを取付けたときは、ガラリの種類に応じて有効開口面積に表の数値を乗じたものを最小面積とします。
- 屋内では拡散排気筒(Kトップ)は絶対に使用しないでください。酸欠事故が発生したり、燃焼不良など故障の原因になったりします。

スチールガラリ	2.0
木製ガラリ	2.5
パンチングメタル	3.4

(例) スチールガラリを取付けたとき 490cm²×2.0=980cm²以上が2箇所が必要です。

家屋貫通部の注意

- 排気筒が可燃性の壁などを貫通する部分は、必ずめがね石かめがね鉄板を使用してください。
- 小屋裏・天井裏などにある部分は、金属以外の不燃材で防火上有効な被覆を行ってください。
- 可燃性の壁・天井・小屋裏・天井裏などを貫通する部分およびその付近では、排気筒を接続しないでください。
- 地域により異なることがありますので、各地域の火災予防条例を参照してください。



排気筒の固定

- 排気筒は風や振動などで倒れないよう、支え金具や支え線などで固定してください。
- 排気筒は固定金具で1.5~2m間隔で固定し、自重を支える部分は支えまたは吊り金具で堅固に支持してください。
- 機器の接続口に排気筒をねじ(1本以上)で固定してください。

排気筒の交換

- 機器交換時には、排気筒・エルボトップ・固定金具も交換してください。
- 異径排気筒は使用しないでください。

排気筒の点検

●排気筒の取付けが終わりましたら、もう一度点検してください。次のような取付けは危険であったり、不完全燃焼をおこしたりするおそれがありますので、必ず修正してください。

<h4>上り勾配禁止</h4>	<h4>5m2曲がり以下のこと</h4>	<h4>エルボトップと建物(隣家を含む)の開口部(窓など)は1m以上離れていること</h4>	<h4>拡散排気筒と建物(隣家を含む)の開口部(窓など)は60cm以上離れていること</h4>
-----------------	----------------------	--	---

付属品の確認

●梱包されている付属品に不足がないことを確認してください。

排水用ホッパー	送油管	給水口保温材	プラグ(1/2)
転倒防止金具 (木ねじ フィッシャープラグ2個)	取扱説明書(保証書付) 工事説明書	所有者票袋 (所有者票・保護シール 特定保守製品説明書)	本体に貼付

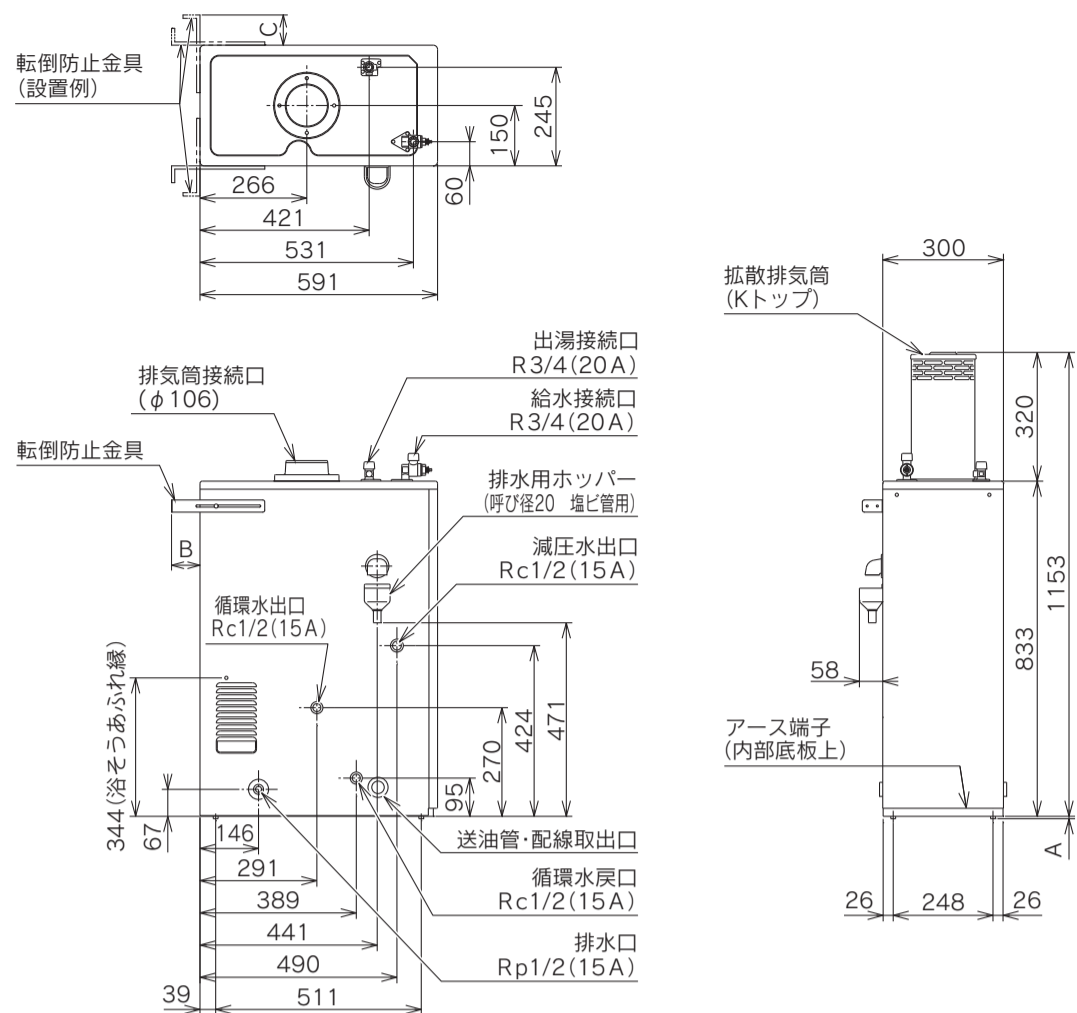
別売部品

この機器には別売のリモコンセットが必要です。
台所リモコンと浴室リモコンを取付けないと操作できません。
(増設リモコンを追加することができます。)

	KIB-4512SG		KIB-4512SAG	
	●リモコンセット(リモコンコード付)	●増設リモコン	●リモコンセット(リモコンコード付)	●増設リモコン
かんたん リモコン (液晶タイプ)	[KR-13] (台所リモコン CMR-2201 浴室リモコン YST-2202)	(CMR-2200S)	[KR-12] (台所リモコン CMR-2200 浴室リモコン YST-2201)	(CMR-2200S)
かんたん リモコン	[KR-7] (台所リモコン CMR-2100 浴室リモコン YST-2002)	(CMR-2100S)	[KR-10] (台所リモコン CMR-2102 浴室リモコン YST-2010)	(CMR-2100S)
インターホン リモコン	—	—	[KR-10P] (台所リモコン CMR-2102P 浴室リモコン YST-2010P)	(CMR-2100S)

●リモコンコード(RK-3P・KFR-3P) ●一口循環口 ●ふる配管部品
●アミ付エルボトップ ●転倒防止金具延長アダプタ ●油切れ予告装置(OC-3)

外形寸法図



※循環水出口、循環水戻口、排水口、送油管・配線取出口は左右両側にあります。
※排気筒を取付けるときはφ106を使用してください。
※屋内設置の場合、拡散排気筒は取付けできません。
※A寸法は最小6～最大16です。
※転倒防止金具は左右側面後方(2箇所)と後面(左右2箇所)の4箇所に取付けできます。
※B寸法(側面取付け)は、最小150(離隔距離)～最大175です。
また、C寸法(後面取付け)は最小150(離隔距離)～最大175です。
どちらも別売の転倒防止金具延長アダプタを使用すると、325まで設置が可能です。

(単位: mm)

据付け

●この機器は「建築基準法施工令」に基づき転倒防止などの措置を講ずる必要がありますので、「工事説明書」に従って機器を建築物に固定してください。

「特に注意していただきたいこと」の項も必ず確認してください。

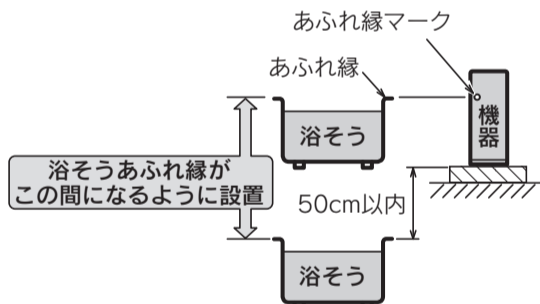
1 機器の設置

- 機器はできるだけ浴そうの近くに据付けてください。
- 機器は必ず水平な場所に置かれていることを確認してください。(水準器などで確認してください。) 傾いていると対震自動消火装置が誤動作します。傾いている場合は機器底面のアジャストボルトで調整してください。
- 機器をコンクリートなどで埋め込まないでください。
- 設置床面は凹地にしないでください。水やゴミがたまって機器の不具合発生の原因になります。

据付けの基準寸法

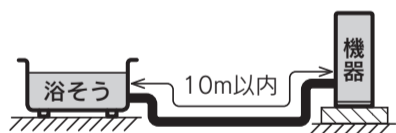
機器と浴そうとの高さ関係

- 【上限】 機器のあふれ縁マークより浴そうあふれ縁が低いこと
- 【下限】 機器設置面より浴そうのあふれ縁が50cm以内



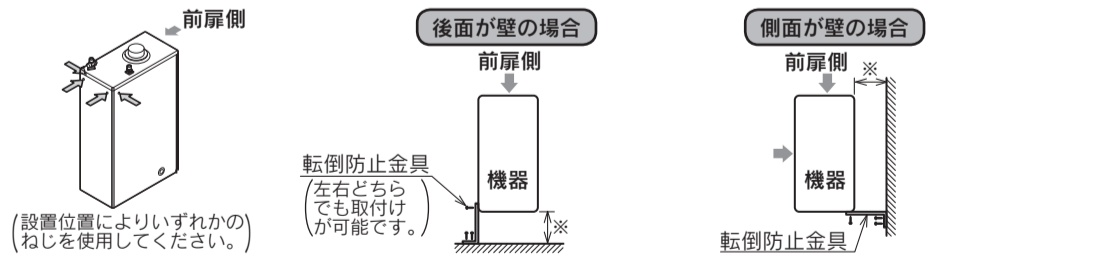
機器と浴そうとの距離

- 配管長10m以内(片道)
- 曲がりの数10箇所以内(片道)



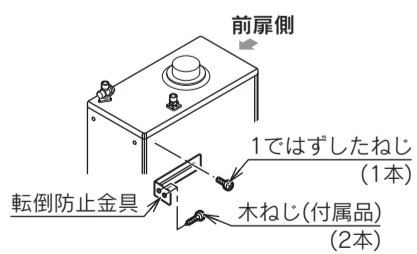
2 転倒防止金具の取付け

1. 転倒防止金具を取付ける部分のねじ(1本)をはずします。転倒防止金具取付用のねじは機器の左右側面後方に各1本、後面に2本あります。※壁からの離隔距離は「特に注意していただきたいこと」の「可燃物との距離を離す」を参照してください。壁から175mm以上離れる場合は、別売の転倒防止金具延長アダプタ(壁から325mmまで)を使用してください。

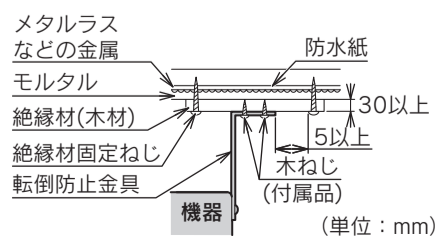


2. 1ではずしたねじ(1本)で転倒防止金具を取付けます。

3. 転倒防止金具を付属の木ねじ(2本)で壁に固定します。
 - コンクリート、モルタルなどの壁に固定する場合は、付属のフィッシャープラグを使用してください。
 - 壁がモルタルのときは、壁内の金属に木ねじ(付属品)があたらないように注意して施工してください。
 - メタルラス張り・ワイヤラス張り・金属板張りなどの壁に取付けるときは、これらの壁と機器が電氣的に接触しないように設置してください。(電気設備に関する技術基準)

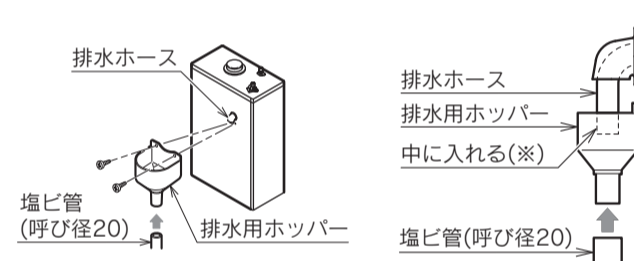


下穴径	穴深さ
6mm	40mm



3 排水用ホッパーの取付け

1. 付属の排水用ホッパーを機器左側面の排水ホース下のねじ(2本)をはずしてそのねじで固定します。
2. 排水用ホッパーに市販の塩ビ管(呼び径20)を接続して排水溝まで配管します。



※排水ホースは排水のとびはね防止のため排水用ホッパーの中まで入れてください。

4 油タンクの設置

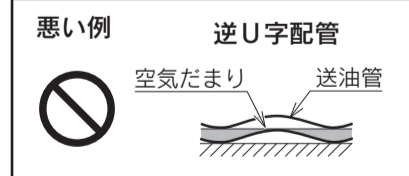
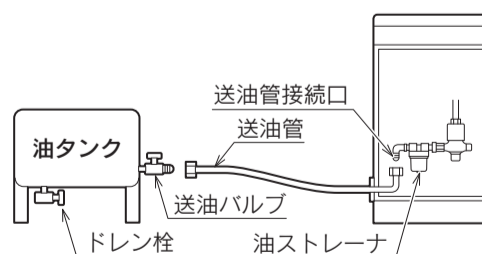
- 風通しがよく、できるだけ直射日光があたらない場所に設置してください。
- 油タンクの容量が200リットル以上のときは消防署へ「危険物の貯蔵・取扱届」が必要です。ただし、個人の住居に設置するときは不要となることがあります。詳しくは各地域の火災予防条例を参照してください。(所轄の消防署に確認してください。)
- 油タンクには必ずドレン栓を設けてください。

5 送油管の取付け

注意

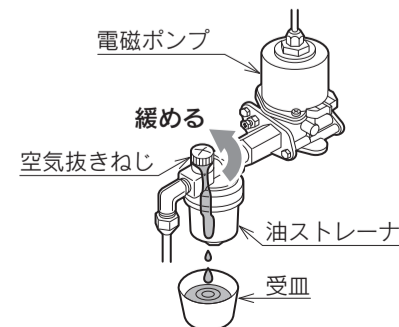
- 接続部から油漏れがないように注意してください。
- 送油管が機器内の部品に接触しないように接続してください。

- 送油管が途中で逆U字型になって、空気だまりができないようにしてください。
- 送油管内のゴミなどを取除いてください。
- 油タンクに送油バルブ(油タンク付属品)を取付けて、送油管を接続してください。機器より油タンクの位置が低いときは接続が不完全でも油漏れは起きませんがエアアガみによる燃焼不良が発生します。
- 送油管接続口に送油管をしっかり接続してください。
- 屋外では必ず金属管(銅管など)を使用し、ゴム製送油管は絶対に使用しないでください。



6 送油経路の空気抜き

1. 油ストレーナの下に受皿などを置きます。
2. 油タンクの送油バルブを開け、油ストレーナの空気抜きねじを緩めて、灯油が連続して出てきたら空気抜きねじを締めます。
3. こぼれた灯油をふきとります。



- 試運転時に油ストレーナの空気抜きを行っても、電磁ポンプ内の空気が抜けるまで振動音が出たり、点火しないで警報になったりすることがありますが、故障ではありません。警報になったときはリモコンの運転スイッチを一度押し「切」にして再度押し「入」にしてください。

水道配管

⚠注意

- 配管工事は各市町村水道局(課)の指定工事店に依頼し、規定に従って工事を行ってください。
- 配管材料、シール材などは各市町村水道局(課)承認のものを使用してください。
- 配管はすべて保温してください。
- 出湯配管は脱酸銅管またはステンレス管をおすすめします。塩ビ管は使用している間に破裂するおそれがあります。また、銅管は赤錆発生の原因になりますので使用しないでください。
- この機器は上水道用です。
- 地下水・井戸水を給水したことにより発生した析出物(炭酸カルシウムなど)に起因する故障修理は保証期間内でも有料になります。
- 温泉水は使用しないでください。温泉水を使用すると、水質によっては故障することがあります。この場合の修理は保証期間内でも有料になります。

配管上の注意

- この機器は減圧弁・逃し弁を内蔵しています。
- 上水道に直結するときは、水道局(課)の認可が必要です。詳しくは各所轄の水道局(課)に確認してください。
- 配管は取りはずしができるような部材を使用して接続してください。
- 配管を機器に接続する前に必ず水を流して配管内のゴミを排出してください。
- 配管を機器の接続口と接続する場合は、必ずスパナ・パイプレンチなどを接続口にかけて、機器に無理な力がかからないように注意してください。
- 機器内に空気がたまるないように、できるだけ出湯側に自動空気抜き弁を取付けてください。
- 混合水栓はその混合水栓の仕様に従って接続してください。
- 本体側面の減圧水出口には絶対に上水道やポンプを直結しないでください。
- やけど防止のため混合水栓はサーモスタット付混合水栓の使用をおすすめします。
- 配管に接続しない側の排水口には付属のプラグを取付けてください。
- KIB-4512SGに太陽熱温水器を接続するときは、減圧水出口に接続してください。
- KIB-4512SAGに太陽熱温水器を接続するときはお近くの工場・支店・営業所にお問い合わせください。
- 排水配管は必ず雨水などの排水溝に導いてください。下水回路に導くと異臭ガスなどにより故障の原因になることがあります。
- 排水配管の末端は排水溝のあふれ縁より5cm以上のスペースを確保してください。排水溝内には入れないでください。

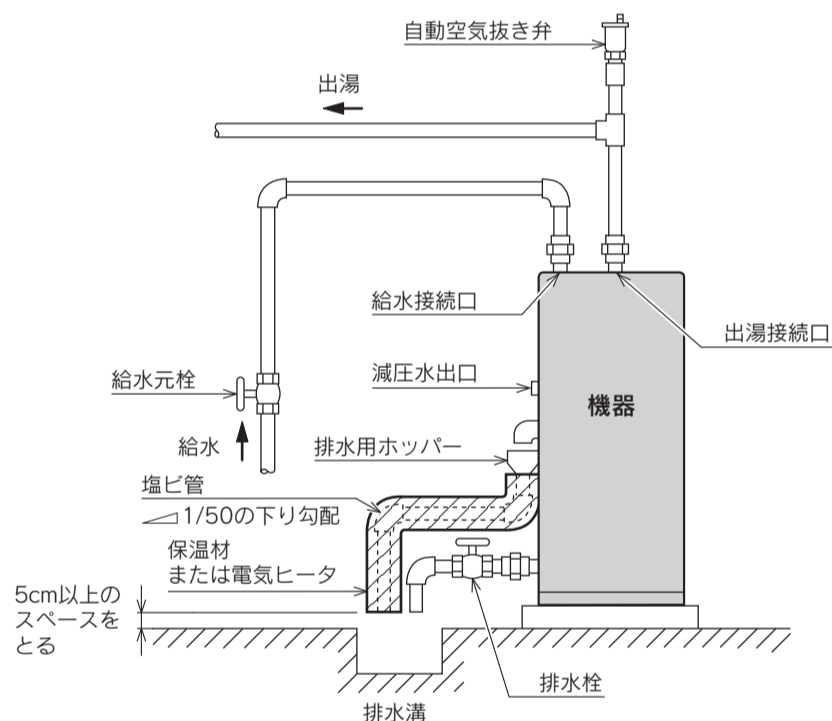
給水配管

- 給水配管は水道管から直接配管してください。
- 機器の給水接続口の近くには必ず給水元栓を取付けてください。

出湯配管

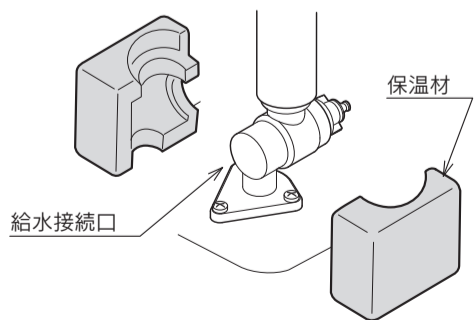
- 機器は使用頻度が高い場所の近くに取付け、出湯配管はできるだけ短くしてください。
- 混合水栓は通水抵抗の少ないもの、またシャワーヘッドは圧力損失の少ないものを使用してください。
- 継手類はできるだけ少なくし、複雑な配管にならないようにしてください。
- 空気だまりができないような配管にしてください。

給水・出湯・排水配管例



配管の凍結予防

- 保温は水漏れ確認後に行ってください。
- 保温材の端面は防水処理を行ってください。
- 給水接続口は給水口保温材(付属品)で保温してください。
- 凍結のおそれがある地域では市販の電気ヒータを配管やバルブ類に巻いて、十分な保温を行ってください。保温が充分でないと凍結予防処置を行っても効果がありません。
- ホッパー排水配管が凍結するおそれのある地域では、その地域に応じた保温処置(保温材の施工または配管用の電気ヒータの取付け)を行ってください。ヒータを使用する場合は、排水用塩ビ管に対応したヒータを使用し、ヒータの工事説明書に従って取付けを行ってください。
- 注意：適正なヒータを使用しない場合、発火の可能性があります。
- 水抜きが簡単にできるように配管し、もしできないときには配管の途中にドレン栓を取付けて水抜きができるようにしてください。
- 凍結予防工事を完全に行っても、お客様が凍結予防を実行しないと凍結することがあります。取扱説明書に従い、実際に操作して説明してください。



定期点検

- KIB-4512SAGは給水用具(逆流防止装置)を内蔵しています。機器を安心して長くご使用いただくために、給水用具(逆流防止装置)に関しては(社)日本水道協会発行の「給水用具の維持管理指針」に示されている定期点検の実施をおすすめします。時期は4～6年に1回程度をお客様におすすめください。

ふろ配管

ふろ配管の条件

- 配管の長さは片道10m、曲がりは10箇所まで可能ですが、できるだけ短くなるように施工してください。配管が長いほど、また配管の曲がりが多いほど沸き上がりが遅くなります。

ふろ配管の注意

- 一口循環口は当社純正部品を使用し、一口循環口付属の工事説明書に従って工事を行ってください。当社純正部品を使用しないと、機器が正常に使用できないことがあります。
- 銅管で接続するときは、必ずφ12.7mm以上の銅管で配管してください。
- 銅管は赤錆発生の原因になりますので使用しないでください。
- 配管を口ウ付けするときは、接続部品を口ウ付けした後に機器に取付けてください。
- 配管は逆U字型にならないように注意してください。
- フレキ管は湯あか発生の原因になりますので、使用しないでください。
- 配管は取りはずしができるような部材を使用してください。
- 保温および凍結予防のために、配管は適宜保温処置(保温材・電気ヒータなど)をしてください。
- 配管が通る壁をコンクリートなどで埋め込まないでください。
- 長時間通電しないことがあるときは、ふろ配管の凍結を予防するため、必ずふろ配管の水がたまる箇所に排水栓を設けて配管の水抜きができるようにしてください。

ふろ配管の接続

- ふろ配管部品は別売です。
- この機器は循環水出口と循環水戻口が左右にあります。浴そうと接続しない側の循環水出口と循環水戻口は、必ずプラグを取付けてふさいでください。
- 配管を機器の接続口と接続する場合は、必ずスパナなどを接続口にかけて、機器に無理な力がかからないように注意してください。
- 立ち上がり配管は、できるだけ浴そうおよび機器に近い部分で立ち上げてください。
- ねじ山を破損しないよう慎重に締め込んでください。

リモコンの接続

⚠警告

- リモコンコードが熱交換器・バーナーなどの燃焼部・ヒータに接触しないように配線してください。
- 余ったリモコンコードは機器外でまとめ、機器内に入れしないでください。また、リモコンコードを切断して使用するときは、樹脂スリーブ付のY形端子を使用してください。

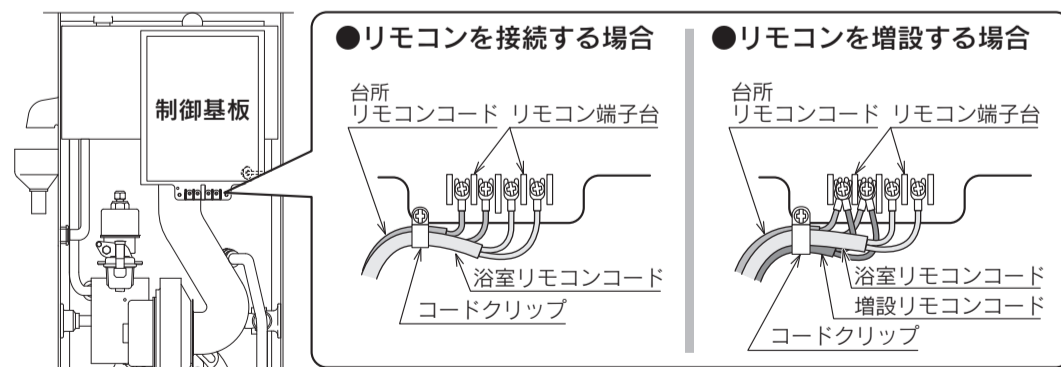
- この機器には別売のリモコンセットが必要です。台所リモコンと浴室リモコンを取付けないと操作できません。また、別売の増設リモコンが接続できます。
- 機器とリモコンの接続は小勢力回路の工事に該当し、電気工事士の資格がなくてもできますが、電気設備に関する技術基準に従って工事を行ってください。
- リモコンコードは電源プラグを差し込む前に接続してください。
- リモコンの表面パネルには保護フィルムが貼ってあります。工事完了後は必ずはがしてください。
- インターホン通話をするとき台所リモコンと浴室リモコンの設置場所が近いと、ハウリング(キーンなどの大きな音がする現象)を起こすことがあります。そのようなときはリモコンの設置場所や向きを変更してください。(KR-10P使用の場合)
- 電動ドライバーは絶対に使用しないでください。端子のねじ穴が破損して接触不良を起こすおそれがあります。

リモコンの取付け

リモコンの取付けは、リモコンセット付属の「工事説明書」をご覧ください。

機器との接続

1. 電源プラグがコンセントに差し込まれていないことを確認します。電源プラグを差したままリモコンコードを接続しないでください。
2. 前パネルのねじ(2本)をはずして前パネルをはずします。
3. 機器側面の送油管・配線取出口を通してリモコンコードを機器内に入れます。
4. リモコンコードをリモコン端子台に接続します。リモコンコードは無極性ですので「+」はありません。ドライバーなどが他の電子部品に接触しないように注意してください。リモコンを増設するときは台所リモコンコードとともに締めしてください。増設リモコンを接続するときは、コードクリップでいっしょに固定してください。
5. リモコンコードをコードクリップでしっかりと固定します。
6. 前パネルを元通りに取付けます。



電気配線

警告

- 電源コードの届く範囲にコンセントがないときは、電力会社の指定工事店に依頼し、所定の電気配線をしてください。絶対に電源コードを切断して延長しないでください。火災や感電の原因になります。
- 電源コードは束ねたまま使用しないでください。また、余った電源コードやアース線は機器内に入れないでください。火災の原因になります。
- 電源コードが熱交換器・バーナーなどの燃焼部・ヒータに接触しないように配線してください。

使用電源

- 電源は必ずAC100Vを使用してください。絶対に200Vに接続しないでください。機器が破損します。

電圧降下

- 電圧が降下すると故障・誤動作の原因になります。

電源周波数

- この機器は50・60Hz共用です。

接地(アース)

- アース工事を確実に行ってください。アースが不完全な場合は、感電するおそれがあります。
- 機器の底板上にアース端子があります。電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、D種接地工事を行ってください。(接地抵抗100Ω以下)
- アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。



排気筒の取付け

表面の「特に注意していただきたいこと」の項も必ず確認してください。

- この機器には必ず排気筒を取付けてください。

拡散排気筒の取付け(屋外設置の場合)

使用する拡散排気筒：Kトップ

注意

- 排ガスの吹き出し方向は拡散排気筒の取付けにより変更できますので、機器周辺の壁などの状況に応じて安全な方向に取付けてください。また、排ガスにより、給水・出湯配管の保温材が損傷しないよう断熱材の処置を行ってください。

- 機器の排気筒接続口に拡散排気筒を差し込み、拡散排気筒付属のねじ(4本)で固定してください。

排気筒の取付け

■排気筒の径

- 排気筒の径はφ106です。途中で細くしないでください。

■排気筒トップの形状

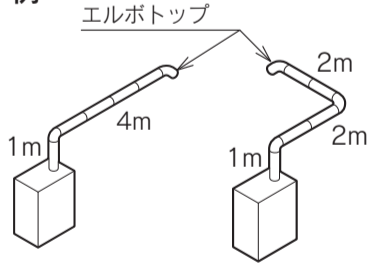
- 別売のアミ付エルボトップを使用してください。

■排気筒の高さ

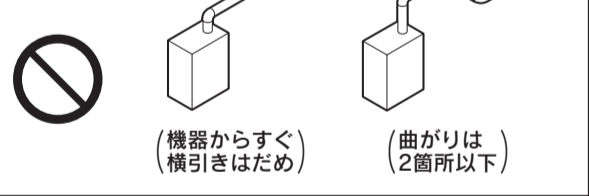
排気筒の設置は次のことに注意してください。

- 縦は最低1mは必要です。機器からすぐ横引きすることはできません。
- 横引きは4m以下にしてください。
- 長さは5m以下にしてください。
- 曲がりりは2箇所以下にしてください。(エルボトップは含まない)
- 排気筒の取付けは機器の接続口(排気筒接続口)を最も低い位置として、立上がりや凹部を作らないでください。排気筒に結露水がたまり、異常燃焼の原因になります。
- 排気筒の横引きは屋外に向かって必ず2~3°の下り勾配になるように配置してください。(極端な下り勾配にはしないでください。)

正しい例



悪い例

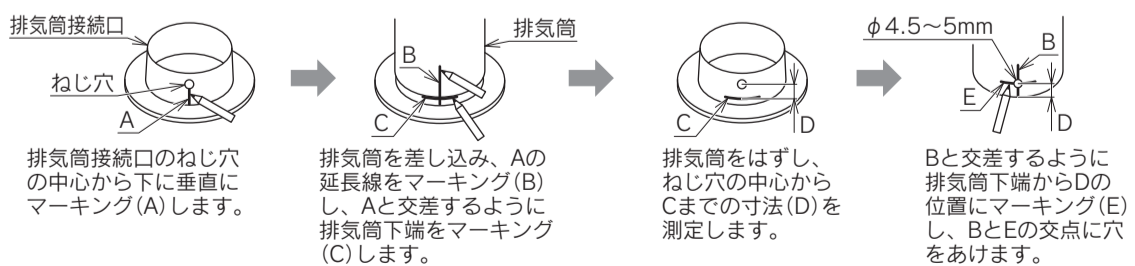


■排気筒トップの位置

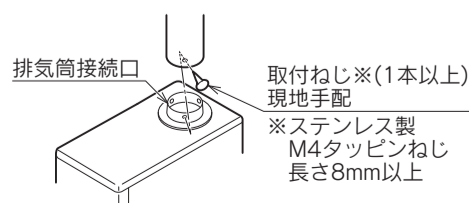
- エルボトップは下向きにしてその開口部を可燃物から上方・前方は30cm以上、側方は15cm以上、下方は60cm以上離してください。
- エルボトップを上向きや横向きにはしないでください。
- 排気筒の凝縮水が滴下しますので、支障のない場所に設置してください。

■排気筒の接続

- 機器と排気筒は次の要領で接続してください。
- 1.排気筒接続口のねじ穴に合わせて、直径4.5~5mmの穴を排気筒にあけます。(穴は3箇所ありますので、1箇所以上固定してください。)



- 2.排気筒接続口に排気筒を差し込んで、取付ねじ(1本以上)で固定します。

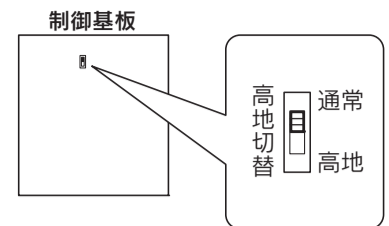


■集合煙突利用の禁止

- 排気筒は絶対に集合煙突に接続しないでください。

高地で使用するときの処置

- 標高1,000~1,500mの高地で使用するとき、制御基板上の高地切替スイッチを「高地」に切替えてください。お買い求め時は「通常」になっています。
- 高地切替スイッチは電源プラグを差し込む前に切替えてください。
- 標高1,500mを超える場所では使用できません。



据付工事後の点検・確認

- 据付工事が終わりましたら、もう一度確認してください。

機器およびその周辺

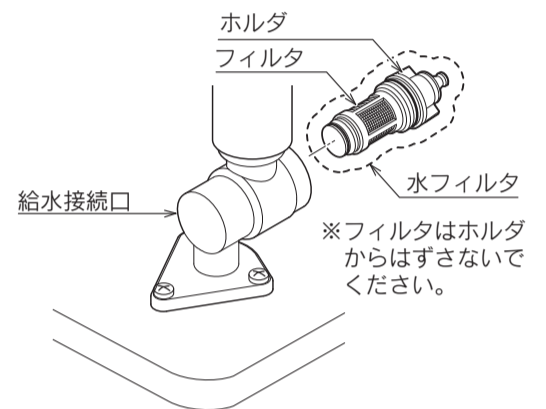
- 可燃物との距離および防火上の処置は充分ですか。
- 点検・修理など保守・管理に必要なスペースはありますか。
- 設置条件を満たしていますか。
- 機器や配管の接続部に水漏れはありませんか。ふる配管の水漏れは浴そうに水を入れて確認してください。
- 機器・油タンク・送油経路に油漏れはありませんか。

電気配線工事

- 機器およびリモコン配線は、指定された工事で行われていますか。
- D種接地工事は行われていますか。

水フィルタの掃除

- 給水接続口の水フィルタをはずし、フィルタにつまっているゴミを取除いて、元通りに取付けてください。



試運転

- 試運転は必ずお客様と一緒に行ってください。

1 試運転

- 1.取扱説明書の「据付け」の「試運転」に従って行ってください。
- 2.正常運転することを確認してください。
 - ・バーナーの点火や消火は確実に行われていますか。(リモコンの燃焼表示で確認してください。)
 - ・試運転時は内部の防錆油が燃える(気化する)ため、煙や臭いが出ることがありますが、しばらく燃焼すると防錆油が燃える煙や臭いは出なくなります。
 - ・給湯温度の調節はできますか。お湯の温度が変化することを確認してください。

2 お客様がすぐに使用されない場合

- 試運転後、機器や配管内に残った水をお客様が使用されるまで放置すると、凍結して機器が破損したり、熱交換器内の水が変質したりすることがあります。必ず水を抜いてください。(取扱説明書参照)

引き渡し

お客様への説明

- 取扱説明書に従い取扱方法をお客様に説明してください。
- 保証書に必ず必要事項をご記入の上、お客様にお渡しください。(保証書は取扱説明書の巻末です。)
- また、取扱説明書に従い「アフターサービス」について説明してください。

所有者登録

- この機器は消費生活用製品安全法の「特定保守製品」に指定されています。お客様に「法定説明事項」をご説明の上、所有者登録(所有者票(はがき)の返送)について説明してください。

廃棄するときの注意

- 機器を廃棄するとき、必ず灯油を抜いてください。リサイクルの支障となります。

住宅設備機器総合メーカー
株式会社 長府製作所



●本社 〒752-8555 山口県下関市長府扇町2-1 ☎(083)248-1111
FAX(083)248-1906